

ハンミョウは、地面を歩いているアリなどを素早く捕らえて食べる様子が猫のように見える斑模様の昆虫という意味で名付けられました。<sup>まだら</sup>大井町には、わずかながら生息していて、出会った時には、その模様の美しさに思わず見とれてしまいます。

5月になると、雄は雌を盛んに追いかけて交尾し、雌は土の中に卵を産みます。卵からかえった幼虫は地面に開けた穴で待ち伏せし、近くを通りかかったアリなどを捕らえて食べます。

飼育してみたところ、毎日のように餌を与えたものは、その年の夏に成虫になり、週に一、二度餌を与えたものは、翌年の夏、成虫になりました。自然界でも同様なことが起きているのではないかと考えています。

大井町でハンミョウの姿がいつまでも見られることを祈りたいものです。



幼虫 左が頭